

ヒートポンプエアコン利用による オリエンタル系ユリの夜冷栽培

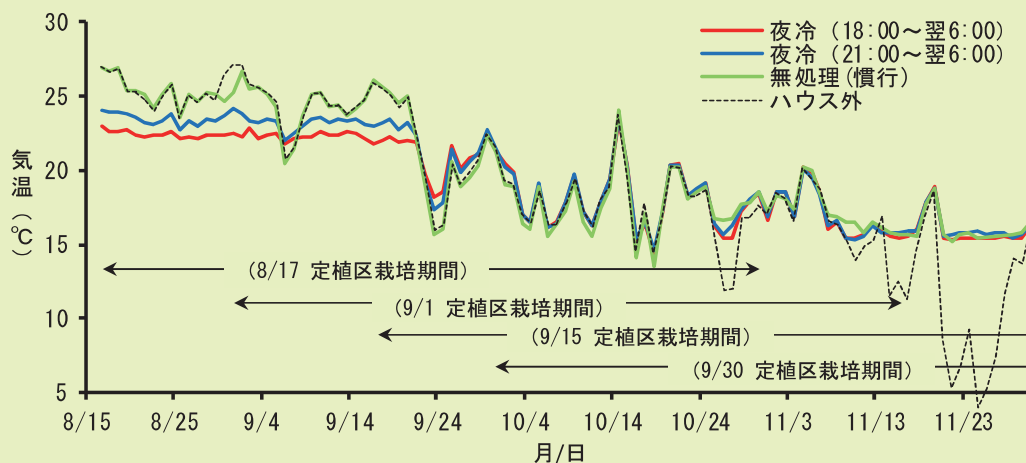


図 定植後の夜温(18:00～翌朝6:00の平均気温)の推移

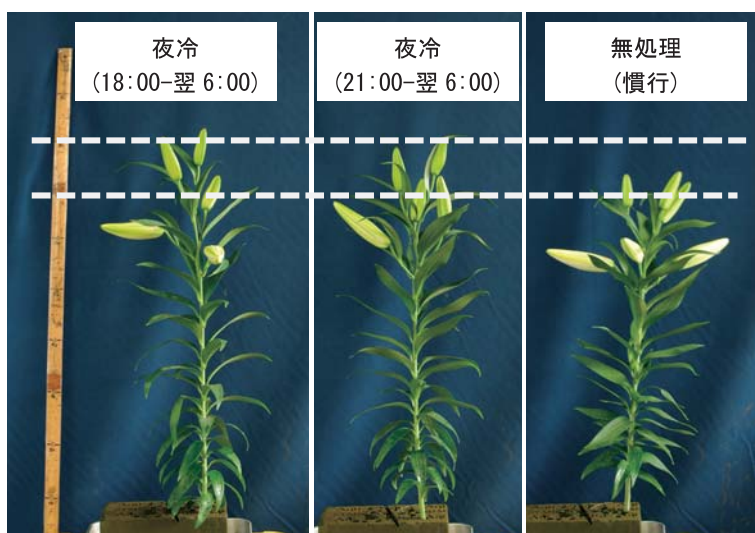


写真 8月17日に定植した‘シベリア’の生育状況

表 定植日と夜冷時間帯が‘シベリア’の生育に及ぼす影響

定植日 (月/日)	夜冷 時間帯	草丈 (cm)
8/17	18:00～翌6:00	81.0
	21:00～翌6:00	80.6
	無処理(慣行)	69.9
9/1	18:00～翌6:00	90.3
	21:00～翌6:00	90.2
	無処理(慣行)	77.7
9/15	18:00～翌6:00	97.5
	21:00～翌6:00	95.8
	無処理(慣行)	96.9
9/30	18:00～翌6:00	107.6
	21:00～翌6:00	108.6
	無処理(慣行)	105.2

オリエンタル系ユリを高温期に定植する作型では、草丈が短く、奇形花が発生して切り花品質が低下します。これまでに、暖房用ヒートポンプの冷房機能を用いて21時から翌朝6時まで22℃で夜冷を行うことで、高品質な切り花を得られることがわかりました。しかし、毎日21時にハウスを閉めるためには自動巻き上げ装置が必要であるため、帰宅前に手動開閉できる18時からの夜冷方法について検討しました。

ハウス内夜温は9月23日までは各夜冷区とも設定温度で推移しましたが、それ以降

はハウス外気温の低下により、ヒートポンプが稼働せず無処理と同じ温度で推移しました(図)。

‘シベリア’を8月17日と9月1日に定植した場合、夜冷開始が18時であっても、21時と生育には差がなく、無処理(慣行)より10cm程度草丈が長くなりました。一方、9月15日以降に定植した場合には慣行区との差は生じませんでした(写真、表)。

今後は、さらに多くの品種で夜冷の効果や効率的な夜冷方法の検討を行う予定です。

(花き担当 松木尚志 088-863-4918)